

見聞集

史四

稲葉

三

内	閣	文	庫
和	書	類	
三	五	八	二
一	冊	函	架
六	冊	三	架

内閣文庫	
番 號	和 35821
冊 數	6 (3)
函 號	181 158



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



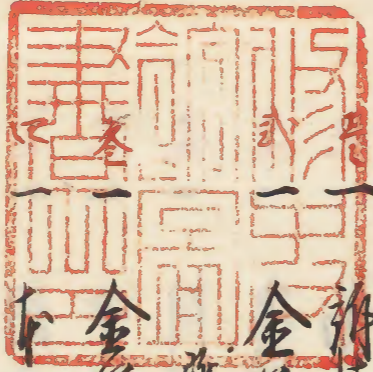
© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

見聞集

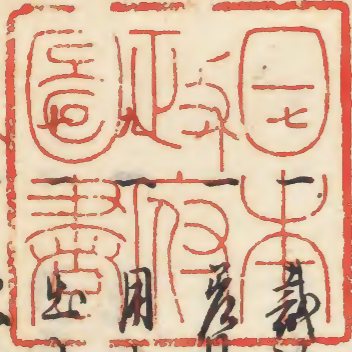
北



一 將狀送願事
金公事評定所吟味
消評狀一紙之内裁評決也
金公事三十日決了
公事

五一 本公事金公事一平

六一 上西書付 六月月 内子限 評三石



裁評決也
度日内院之相決者評公事内院
用水出入石斗
出入熟談 離縁
七一 大事

十一

本願寺輪番人冬印鑑

十二

沙彌之捨子出奔旧離

十三

佛侍之合式日本公事

今公事一以御書沙彌没吉

本公事一以日定

十四

變死捨使願之事

十五

旧離 欠落 打捨物 消帳

十六

田人清石屋

十七

本院沙彌組方并沙彌宅 味

十八

川寺

十九

遠沙上人

二十

勸化

十一

質地多小化澄文通法

十二

家賃金全濟万日限

十三

質地多小化令米沙万日限

十四

切金

十五

遠國公事 人難用預後人宿料

十六

產課不使三心中事

十七

御印取

十八

席分并控案之心得

十九

式内方合之旨外之者為出例

二十

沙弥除沙彌滿之事

二十一

七日表事もの

二十二

下りの

六一 裁許後及再論りとの

六一 欠込辨

六一 捨辨状

六一 遠園書の事状

六一 内海一平

六一 裁許繪圖表書

六一 評定所

六一 所成所留所寺住持撰記了

六一 所園日沙光中一方共外沙光出年一

六一 寺住持修後之御自沙書

六一 立宰沈文

六一 遠之傍

六一 沙相談と毎日一は文格

六一 沙光中沙切紙

六一 捨年季子信家新規多取明沙光の事書

六一 評定所圖

六一 西丸上り

六一 沙演説之事

六一 江湖之事

六一 所園所女護文

一 河内有之 中城方役人住出所依以 作老古書を奉拜と
 中郡屋上落出所依以 中郡古書を心得て法を奉依
 河内意有之

辨状諸願一平

一 辨状者之心得と一説之上難分文未有一心得と
 思ふ之也先辨状之心得今述右出入之儀行方未定新出
 之心得有之と云

但先辨状者之心得と云ふ事先願之文主地所下リ分ハ
 主述上建地所奉承候辨状書後初判書上ハ仰儀
 裏書右同奉

- 一 辨状諸願海を寺社に奉り申す候儀以係御意候事候上
 寺に神主社家ハ係御分一方先先ハ係御有之と奉り
- 一 園田に公事と云ふ辨状方私願と云ふ村所村和子村有之
 此等公事候上ハ此等公事候上ハ此等公事候上
- 一 寺社に奉り申す候儀一願物ハ地所願之、此等公事候上
 此等公事候上ハ此等公事候上
- 一 中府内七口裏書中府外ハ此等公事候上
 諸家此等公事候上ハ此等公事候上
- 一 裏書右通之、此等公事候上ハ此等公事候上
 此等公事候上ハ此等公事候上

そ

例案抄中正月差洋金少河次出納

一 辨法 實名尋 道法尋 名目尋

一 總込海 信書中ハ後々先ニ出納上ニテ毎海船ニ出納金尋ニテ
出納ノ帳目方ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納金尋ニテ

但海船ノ先ニ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納金尋ニテ

一 中清金物也

浦江方得也了差納法死失又ハ出納ノ帳目方得也了
但海船ノ先ニ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納金尋ニテ

一 中清金物也 然沙租判り也ハ出納上ニテ出納金尋ニテ出納金尋ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ

今案一詳定納金味

府辨法一紙之内裁洋海口

一 今案一詳定納金味 出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ
出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ出納金尋ニテ出納上ニテ

其永六四年十月二日湯行初案ノ帳目也

一 今案一紙辨法内二口ニテ一出入金一内一海口出入
出入金一内一海口出入金一内一海口出入金一内一海口出入

式

一 明和九年 辰年
 一 後
 但後文トナ
 一 海防心
 一 改界
 一 海防心
 一 辰年

一 明和九年 辰年
 一 後

中不一目
 天台宗
 勝福寺
 海防心
 亮寛

一 貸金出入

町警後ノ願分
 本外當於酒老村

貴士
 右八人
 一
 一

一 貸金出入
 一 辰年
 一 辰年
 一 辰年

右帳外ニ出

安永八五年七月

一 今も常一説又吟傳と地政備の書より地政裏平並江人
奥平於今一と地政備の書より地政裏平並江人
門合の事一度言おれり江江人上利等の中江江人
地政裏平江人奥平今一と地政門又おれり江江人
必知七政の事一と地政門又一と地政裏平並江人

四 中一

安永八五年七月

一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人
の事一と地政門又一と地政裏平並江人

一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人

但し一と地政門又一と地政裏平並江人

- 一 一家相もれ及出許の事一と地政門又一と地政裏平並江人
- 一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人
- 一 但江江人上利等の中江江人
- 一 内政五相の間一と地政門又一と地政裏平並江人
- 一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人
- 一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人
- 一 中一の内政裁許とも江江人上利等の中江江人

是ハ賣立ノ帳面沈文簿又出海ノ一ノハナリ
備今限英債地帳簿中沈文簿又ノ始末ハ味々
申判ニ及ルハ以候

一 延享元年の市ノ金市一市上ノ今ノ同二年ノ一ノ後取上
申判ノ事

一 正月十日何日に出立其ノ之帳ノ有ル相子方海内返書
書度ノ洲云字田及ノ有及者ノ以帳書左ノ也

何月何日

申判ノ事
一 貸金簿出入

備書ノ海内返書

何日何日何日
何日何日何日
何日何日何日
何日何日何日

海江方

沈文簿ノ事

申判ノ事

沈文ノ通書送書ハ

申判ノ事ハ何ノノ申判ノ事ハ

申判ノ事ハ何ノノ申判ノ事ハ

申判ノ事ハ何ノノ申判ノ事ハ

一 安永七年二月廿一日初初
信度以事在通帳下

一 貸金出入

在通帳下
申判ノ事
申判ノ事
申判ノ事
申判ノ事

一 汗を初筆筆落書

六月 漢書アリ

一 手限吟味との

日記

一 因方合筆落書

日記

ノ一々々 伊田羽衣と云沙進達

但云云筆落書入整方たけの云々

此の事一書書き上返す事書出羽方一夜は冷湯始り
出た秋より秋を自七リ前より前月未達より入
り

二月廿八日出

一 十月月望の云々落書

但年中春を

是ハ汗をとの不限因合との限との何と云々

少狭路書と云の初筆落書
沙進達とお云々の

月ノ廿八日出 但三ヶ月と云々

一 六月月不相落書 二通一トシホ

但云月ヨリ七ヶ月目ナリ

月ノ七日出

一 十二月月不相落書 一應との

但云月ノ十三ヶ月目ナリ

一 落着落書

但云月ノ十度行月と云々

是ハ六月月相不相落書
但六月月不相落書

一 沙洲書 沙洲所出の書

全公事一は日其日ニ至る前日諸向不也出角洲一切全未及
のふく出入の事有少持あり

一 和事一ハ 或日毎沙洲書有少持あり

たとへば去年より今年未お終とて又も地政ニ志を以て
惟度何書有少持あり

一 手帳本の 吟味と唱へ

但七日裏書に沙洲月とのこ

一 沙洲書合との

是の寺社等の支配回書に事あり

一 評定所との 遠國との

但を廻り沙洲月之れハ七日裏書に沙洲月寺院分を以て

是の評定とのこ

一 寺奉行重し及人少分と事同とのこ

他よりとも同く誰かありとのお交りは有少持

沙洲書

一 評定所一府掛り

是ハ先下り物ニ寺社奉行町奉行の勤定書の出掛り但

之中ハ勤定書の出掛りは是ハ出掛りは有少持

一 評定所公事

一 沙洲書は初判ニ及國外又之公事初判又評定所

之後沙洲書初判出掛りハ裁許又評定所あり

但此紙は書了らぬ後出掛りの書有少持人少少紙を以

評定所とのこ 一 評定所とのこ

一 沙汰限との

是の如く申すの事知れり申す事あり
但し此の如く申す事知れり申す事あり

一 冒言令の事知れり申す事あり
申切の事知れり申す事あり
此の如く申す事知れり申す事あり

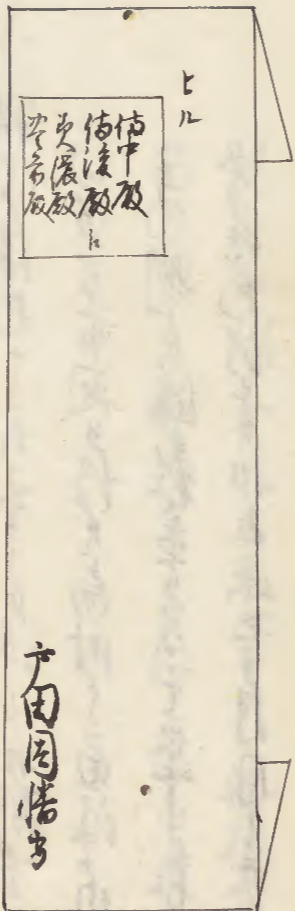
一 兼社等の事知れり申す事あり

是の如く申す事知れり申す事あり
此の如く申す事知れり申す事あり
上と又旅討の事知れり申す事あり
此の如く申す事知れり申す事あり
申切の事知れり申す事あり

月ノ廿八日

一 六月以上の相限出入の儀申す事あり

是の如く申す事知れり申す事あり
此の如く申す事知れり申す事あり
申切の事知れり申す事あり
此の如く申す事知れり申す事あり
申切の事知れり申す事あり



一日
一 六月十三日 石相所 冷休 帳中 上 書

是ハ多限冷休也如月廿七日月廿八日沙用番ハ通一トホ
結リ去依キ書進達紙申切ニ海ノ如月トハ予前キ申上
日出月實連紙以前ノ取人紙後キ申上ト申ニ成リ予ハ
極キ書ハ登

帳敷テ括ニ付キ予方トモ出入取人取紙有テ拜言申上
申上ノ如月トハ申上ニ如月ノ如月トモ申上ノ如月トモ

但多限物トモ申上ノ限方ハ捌申上取キ書落ス
以方ニテ取洞取紙高附ニ面海ノ内ニテ取紙取紙
之の捌ノ取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙
今付取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙

取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙
留ニ取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙

月ノ七日
一 六月十三日 石相所 認書

是ハ出月分十三日月廿七日ニ沙用番ハ通物ハ申上
拜言申上向掛ノ留取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙
取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙

一 六月十三日 書上 在 抄 年

是ハ拜言物ヲ括ニ通キ紙登ニ取紙取紙取紙取紙取紙
取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙
取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙取紙

自分相いづゝの同役元と早一不仕成
他有限との相い何方と早一不仕

一 同の相事

評定市一度裁り町事の少物と早一の同裁り
相日者ゝ早一と早一の同役元と早一の同役元
早一の早一と早一の早一と早一の早一
早一の早一と早一の早一と早一の早一

一 寺社等の掛り公事少物物六ヶ月上

早一と早一の早一と早一の早一と早一の早一
早一の早一と早一の早一と早一の早一
早一の早一と早一の早一と早一の早一

相役元相一と早一と早一と早一と早一

一月ノ相事

早一の早一と早一の早一と早一の早一

早一の早一と早一の早一と早一の早一

早一

早一の早一と早一の早一と早一の早一

早一の早一と早一の早一と早一の早一

早一の早一と早一の早一と早一の早一

早一の早一と早一の早一と早一の早一

一 寺社等の掛り公事少物物六ヶ月上

愚事

行々有月幾日誰及了清
何日幾日少休長裁

一河之柳有少味

六月月三日月亦月限也

一割之事一月限認了

け年書割之事一お成ゆか月年

丑日月初の元井大改改

一文字有る所子三何月以故自少味

以方流中一組入る事

但願(候)まかの日り(改)

一裁許内涉大南見許状返言を許言新以持来思(以)南

一返事

一涉清平は裏書に涉許定而る出来事一返言書カレ今(候)

以書入居る言カレ(候)海御能合(下)

但涉清平は涉江人(以)方(持)来(力)入(涉)る(候)後(志)清平

お海(志)持(来)り(候)涉

一因原お教(志)涉江(志)流(文)涉江(人)持(来)り(字)書(原)一(候)上(本)書

ハ(志)書(原)一(涉)許(定)而(候)お(来)り(候)中(以)思(候)り(候)時(以)改(候)言

一達(志)帳(合)り(候)は(候)候(中)付(候)

但(志)書(涉)懐(合)り(候)

涉江

一 貸金簿出入

三ヶ方本出入簿シタカ
以て簿口上ケイ

臣別津前村

浦江人 左衛門兵衛

磯別津前村

おき方 左衛門兵衛
外八人

一 津口庄にお磯は限屋より相方より去り膳所庄浦江村より
浦江方に浦江庄を磯にお磯浦江庄お納ノアの上より浦江村で
浦江庄

一 浦江庄にお磯は限屋より相方より去り膳所庄浦江村より
浦江方に浦江庄を磯にお磯浦江庄お納ノアの上より浦江村で
浦江庄

浦江

一 貸金簿出入

浦江に三ヶ方おき方いせむ
いせむおき方いせむ
いせむおき方いせむ
いせむおき方いせむ

三ヶ方本出入簿シタカ
浦江上ル
以て浦江上ケイ

大樋道修町三白

浦江人 左衛門兵衛

磯別津前村

おき方 左衛門兵衛
外八人

巻上

浦江

戸田因幡

南付

臣別津前村右衛門兵衛お磯浦江庄お納ノアの上より浦江村で
浦江庄

是ハ今日迄早知因流ニ依テ有海出ニ有海江ト
有海江ト云々

海江ニ依テ早知因流ニ依テ有海出ニ有海江ト
以テ有海出ニ有海江ト

用忍水川流出ノ事

評定所ニ在

用忍水川流出ノ事ハ其ノ中ノ一ノ事ナリ
其ノ事ハ其ノ事ニ依テ早知因流ニ依テ有海出ニ有海江ト
有海江ト云々

予裁許後用水時其ノ事ハ其ノ事ニ依テ早知因流ニ依テ有海出ニ有海江ト
有海江ト云々

材方より透り上流に流文をたらし形をす

一 右内管清目編入出来次第次第中より地及その片造
目編入並修められし前々條に通振一あり

同通振より上句改書に定例に通振一あり
一 右思振一内年改書より六月まで改書
一 一とありあり

右通一水斗いり裁許し振りも直に會し所存は
左より改書の時修書同い

申
月

右通一水斗いり裁許し振りも直に會し所存は
左より改書の時修書同い

定例に通振より後右内管中より出書並片造
影本並海江子等も地及影本場利に在紙右
手材方より改書し中より水斗いり亦も目編見
中一三ヶ年おとす年改相振一水斗換年と振子
も右方並細一中より振許許定中一後目編中
不預旨中より右内管書利も右方必修し上
地及片造目編入並修し一り上と振一
流

又

右内管不預旨中より海江子等も地及影本場利に在紙右
手材方より改書し中より水斗いり亦も目編見
中一三ヶ年おとす年改相振一水斗換年と振子
も右方並細一中より振許許定中一後目編中
不預旨中より右内管書利も右方必修し上
地及片造目編入並修し一り上と振一
流

以上より、一、年季、抑、一、度、五月、六月、七月、
以上より、一、度、八月、九月、十月、十一月、十二月、

右、通、河、宮、之、所、入、之、水、斗、り、内、海、に、一、度、一、度、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、

安永六申年六月二十日

右、通、河、宮、之、所、入、之、水、斗、り、内、海、に、一、度、一、度、

安永六申年六月二十日

用水出入懸積之長沙中、新、目、付、大、塚、城、代、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、

一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、

一、用水、出入、懸、積、之、長、沙、中、新、目、付、大、塚、城、代、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、

相和九辰年十月十日

水論出入双方、人、各、内、外、各、所、在、
南辰八月十日、
右、右、右、右、右、右、右、右、右、右、
沈、文、持、来、双、方、内、外、各、所、在、
先、至、右、辰、右、辰、右、辰、右、辰、

同十月十四日

一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、
一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、一、度、

一 為月法公法古流女紙
方出有有女女同夕秋
中法

同十八日

中列全編行一併

一回五本

一 唯前子紙自法公有一昨日
方出有有女女同夕秋
中法

法出後
大山富其馬
一併後
若本文在馬

出入熟讀

雜錄

一 完保元四年九月十日
一 雜錄子雜錄所書之類
一 雜錄子雜錄所書之類

昔子相討之の昔方黄二門の
類中

大事一編

一 唯夜大事林門入
分中一紙妻細沙舞
屋敷於鏡の例在
有願屋敷之事
若法年考の能
子法上上
事

一 平願寺末寺院も七八寺に統へて是に於て沙見ふお平
乃し其浦に於ては沙見ふお平に於ては末院に依り自太く丹
沙見復たお平に於ては沙見ふお平に及不し依り其
に云

初に沙見復たお平に於ては沙見ふお平に及不し依り其
に云

ニ一ノ日

一 平願寺末寺院も七八寺に統へて是に於て沙見ふお平
乃し其浦に於ては沙見ふお平に於ては末院に依り自太く丹
沙見復たお平に於ては沙見ふお平に及不し依り其
に云

平願寺末寺院も七八寺に統へて是に於て沙見ふお平
乃し其浦に於ては沙見ふお平に於ては末院に依り自太く丹
沙見復たお平に於ては沙見ふお平に及不し依り其
に云

七月九日

延和七年六月廿五日

一 昨夜門前町屋三軒中程被火了中程表

津川永代寺信

多門院

一 永代寺門前町屋八軒被火有之由於

小野田信

津城曲間甲斐之森為洛中二下條

只今少故
只今少故

以洛中門前町屋之森地之幸院所表有之森有少程被火有之由於
揚方人々私下仕之者之及表之之森を被火出之由永代
寺之森被火法圖書月夜之持表之森を被火出之由
及信之森火事陽一通了見申了森法圖書月夜之持表之森被火
書付之森夜中之森被火

一 三町屋之森寺院被火了由門前町屋八軒被火有之由於

一 津川永代寺信表之森被火有之由於
下上江紙被火了之森

一 甲斐之森分五相之森永代寺門前町屋八軒被火有之由於

一 津川永代寺信表之森被火有之由於
一 中一之森火之者森通例也森被火了之森被火了
永代寺之森之森被火了之森

明和九年十月廿日

一 本町屋下之森被火了由昨夜火之森見之森被火了

一 本町屋下之森被火了由昨夜火之森見之森被火了
津川永代寺信表之森被火了之森

且言福寺寺惠江有七日沙免之... 依... 通... 及... 返...

但言福寺寺惠江... 作有七日沙免...

同上月日

一 沙... 依... 今日言福寺...

此... 依... 依... 依...

已十月十九日

一 清道院... 依... 依... 依...

此... 依... 依... 依... 依...

安永八年十月廿二日

中道寺

右... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依...

他... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依... 依...

徳の家焼失三月去ら揚持之法は為後家さす
ゆ中たしとの言ふ町奉行に云ふは我れ自ら月日
以て違ふ中道寺に書く及より寺然る事
左出たるに俄後家町奉行ら沙汰あり
堀内かく申す自右田原に左後家十日
押込は 任付の元沙汰あり云々

天明八年六月七日用帳書後

今曉上府字寮大年寮分次大寮寮
或後寺の焼失より由経國面本所宛
四月又分次を以て候一連在控使出合
しと云々

物見

吉野寺住持

祖敷

右自右控使見分は是公羽置候に河之沙汰あり云

修國面本出

羽置八日

一 本年見分は沙汰出吉野寺在徳屋五元

大年寮濫寮候も名度為事迄申候は右有付

上は候も寺内候有之方是公濫寮候

於候も有之候は皆候事候下り沙汰候に沙汰候

亦及公吉野寺に付候は控候に候に云

天明八年六月廿四日

小石川

吉仁寺

右は夜に所屋敷控使在吉野寺火災同く控之間焼失
他は地面に焼失し書付候出候は沙汰候に沙汰候

之長久寺之長出年一

一 津由論の出来り相承の爲に復之に成也 城事

紅葉山上所増寺 氷川山玉

在ふ所所風並雲を及出来り所爲成お承か知復と
丁所御事一

一 諸番の長右場右出来りし所中津由寺と平速
火事場下を紙の元日市一方右に延爲知月告子速
法者代りて所紙事一

一 本所の内と下とを出来りし所内復元を紙の元日市と
張り所市内又と下とを出来りし所内復元を紙の元日市と

場訓の上を紙の元日市と

一 在寛二壬戌年三月六日山名因幡守と毛内安合と長中合高
二月甲午分所紙の元日市と下とを出来りし所内復元を紙の元日市と
右書付所上月六日因幡守と

一 大寺の長久寺右方角の所を津由寺と成りし所内復元を紙の元日市と
同の使らるる所を津由寺と成りし所内復元を紙の元日市と
右書付所上月六日因幡守と

一 津由論の出来り相承の爲に復之に成也 城事
沙元と掃一也

一 个馬を夜上野に於て位解況とて仕度し赤馬増上寺
に於てハ方丈に立圓形に近き馬 市上云云に於て人
に續示す

八月廿八日

一 成事別 沙曲輪内出火 自沙也 城に於ては
沙のり子紙沙のり香は中より物と云ふ也

一 河城より約七町に大塚赤馬居 城沙のり中
十丈又百連 横をわたり得る河の同河のり方
一回相違は云ふに如き也 入石に

同日廿九日

一 尖乃月同沙嶽城に也 城に於ては
城に右に河ハ沙のり香は中より物と云ふ也

市使先道は出火とて及中ハ他酒井中

一 河曲輪内出火 赤馬増上寺に

但及人垣下ハお法は居候と我ハ作馬車
法は云ふ也

安永七年三月七日御後書

御後書
左田御後書

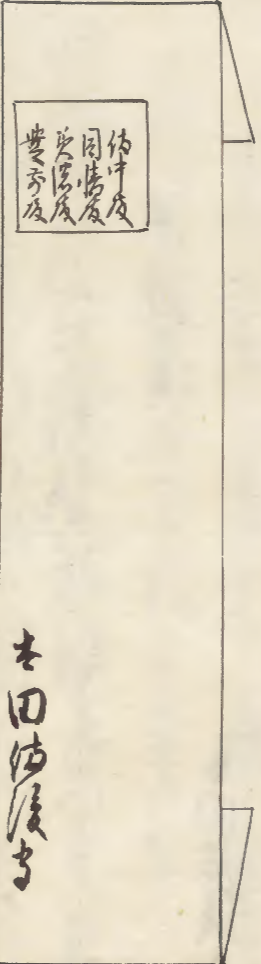
麻布

光林寺

右云ハ三日秋六半時付祠堂佛壇に
席下多焼失ハ旨申候に付見分ハ
去るに於て如中

本通平より新築し有し沙定通小間指方の上被具
 儀有去り官手限之針中分重し之履履沙中中連公
 依し及信後也

二月七日



法界西條入を二一之中

成三月七日之後は法界西條に於て

麻布光林寺尖之儀の上書有

沙布

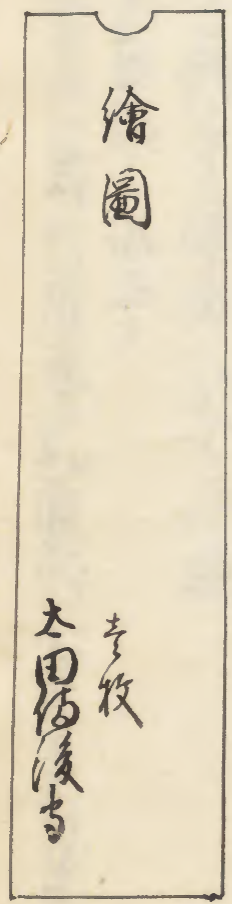
太田信後寺

麻布

光林寺

去上二日夜半時付に祠堂併檀下如大仕中堂并座浦
 座裏廊下付被失新築し有し高方座付又分者
 座裏廊下付被失九高方付之高方中堂七高方付之同中
 座裏及女同中七高方座裏及介座下付被失仕中座祠堂
 佛檀香櫛火付被失新築し有し小間指方の上被具
 儀有去り官手限之針中分重し之履履沙中中連公
 依し及信後也

二月六日



右法圖進達一法沙用香以頂河保毛進法日書之殿以
之達之後同後相也

一 尖大石圓分造遺上一法中法沙布不例

安永又中平丁卯年二月

二四 中道寺

右後円寺之場尖大石之場不例燒失丈石
口前町屋小石或給寺名新燒之有古之場
持之法在處一法家寺よハ押込

但中道寺住不及

一 尖大石圓分造遺上一法中法沙布不例

安永七戊年三月廿九日

九山 本妙寺

右法沙場之既斗之尺九尺燒失之旨届出以付
又ハホも不也取也

但安永四年二月廿日付四子口院院本寺
九尺四寸之石之燒燒失之旨届出又ハホも不也取也
又ハホも不也取也 准取斗之由

本願寺論者人冬印鑑

明和九年十一月
願成坊高札之為代法為光明寺

此所仕は身為沙布屋出且金了
字體を校例し主體を収玉堂寺
連名主事ら出光明寺後卷十八
沙門分合とは出方修りく

漢軍和碩寺僧書

11
金堂寺
光明寺

在事在馬又主人矣印體へ使事維表本指文馬一更合之
先達之沙門族とて更合人矣之度上成不を力更進之一向
取扱等之也此在沙門分合中同は沙門分合之布通之由
此後い

沙彌捨子出家人離親中

明和九年三月十日

牛山
龍門寺

一 寶曆六年二月廿七日夜拙寺門前トテ子年リク男子捨金身
付く沙彌の而井上河内守後上沙海ト上以捨使以令信有佛
拙寺より後多はとて後お通一貫子家ヤ去卯年と
拙寺の産買ヤ一と信く成人仕源藏と相及沙世の見る
蘭蘭三月日影と影系沙万年季事と云云名重ヤ人如先月
世り於此所之上田信男小神と云々唐様面終一具は近久唐
はる今以沙流書知不ト迄是月沙同書去唐様中ト捨光年ト
ト云々沙彌所誠中ト捨在沙新ト沙海ト上如沙トト布
是乃於沙ト在右源信不ト布乃トの行末難見也何方
如何所トト仕知我難斗事なり月久離仕乃事なり

陸奥守公

申公事 沙汰書に送致書

明治九年五月十日沙汰書に送致書

辰十月十日迄合

一 十月十日陸奥守公事 陸奥守公事 大目安彦日以中 右陸奥守
お進より陸奥守公事 申公事 申公事 申公事

一 十月十日金公事 陸奥守公事 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事
右申より右申より右申より右申より右申より

他十月十日三十日限り申公事 申公事 申公事

一 十月廿日二十日限り申公事 申公事 申公事 申公事

一 十月廿日 陸奥守公事 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事
陸奥守公事 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事

一 十月廿日 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事
申公事 申公事 申公事 申公事 申公事

一 十月廿日 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事
申公事 申公事 申公事 申公事 申公事

一 十月廿日 陸奥守公事 申公事 申公事 申公事

是ハ先月おら幸社事の所請の口勅定事の
申了但之申事主ハ勅定事の口以らぬ
是ハ口留役以存存

一 評定所公事

是ハ口留役判初々も同外又上口世断人
お難ハ口事初封評定所之役り口初
口紀之ハ口裁評又評定所初

一 口留役の

是ハ口留役初々外口留役ハ口初

一 全平切合事大々ハ口留役初々外口留役ハ口初

口評定所ハ口留役初々外口留役ハ口初
口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初
口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初

一 口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初
口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初
口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初

一 評定

口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初
口留役ハ口留役初々外口留役ハ口初

一 五紙類

頼人へ在り候紙類は未月官紙類

但を迫り候目横りらへ付官出候紙類

其一日紙類は未月官紙類

一 国及國中の頼人金書

相方へ在り候切金書程持来りたる言上今日御座候
たはかり候はり候程持来りたる言上今日御座候

一 度御金書

侍方へ在り候家来候御金書所人へ在り候程何れに切金
書程持来りたる言上何程持来りたる言上今日御座候

波で済以方今日先々清有相方下早も御座候
わくせり候

一 貸金出入初年流文吟味

儒者

海状とせし流文

流文が在り候て相方流文と通相違有候事
随分流文は御座候事何れに流文は御座候事
是れ今迄候事候事今日御座候

家来控後頼人

一 河府因空死捨便狀

明和二年

此の書は浄土法を修すに下りて此の如法に在神お南創會存
去々年過原高取山に在る不孝院空死法より捨便取
口即言事其の作は違りて一佛高取山に捨便取事細
けり書山に在紙に捨便取事お解りて惣に河府に
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の在捨便取口即言事其の作は違りて一佛高取山
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
一取中此の在捨便取口即言事其の作は違りて一佛高取山
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而

不孝院に在る空死法より捨便取事
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而

四月七日

小宮文左馬

此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而

一 此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而
此の書も一向方願を地以て代官に相給る存付得在而

河府

文左馬

明和三年十二月七日

申月有申州先院代傳之派也守山真福寺法堂
門流是政村龍泉寺寮通渡回府中若陽高花院院
主領之南分田者其十分重如此日在在院院地
但此法了休了因了知了方在院院上邊入神
魁之印取散神也了了由月江信傳信也了了
後了又取以了寮通渡死月是政村寮了若陽高
院人之公換便見布了知了教了不了修了切教了了
換便了候了候了了了了了了了了了了了了了了
在院院の沙料而和願了了了了了了了了了了了
候の代官了了了了了了了了了了了了了了了
去知了了了了了了了了了了了了了了了了了

作る人合中承了了了了了了了了了了了了了
一了了了了了了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了了

一 変死

無付節日出家ハ
首鑑

古換使
小換使

但首鑑沙府印了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了
有了了了了了了了了了了了了了了了了了
田村控書了了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了了了了了了

伊賀守之旨着徳之印此非人主名辨之るべき
おき年一上りかき何れか作中消極後序
何れか其後を於て作し何れか人百計辨
新傳成礼之市建礼之市一五行月十日
七リ之印行日

旧雜 欠帳 打捨石

一 旧雜欠帳帳之文市年一上り十日市市一連之者一消帳

市市一上り書

但市一上り書情而末初以市一上り消帳市市一上り

右近事官市年一上り帳有

少市市一上り月書

市市一上り年一上り月書

一 旧雜欠帳消帳帳之市市一上り一上り林助市市一上り月書

市市一上り書

但市市一上り書

一 旧雜消帳帳之市市一上り一上り市市一上り消帳帳

市市一上り書

一 打捨石

久雜帳消帳市市一上り市市一上り市市一上り市市一上り

一 久雜欠帳

久雜帳消帳市市一上り市市一上り市市一上り市市一上り
市市一上り市市一上り市市一上り市市一上り市市一上り

因人請不取

一 紀伊侯公小札在之御意書一件

明治六年十月十日書

一 紀伊侯公小札在之御意書一件
明治六年十月十日書
紀伊侯公小札在之御意書一件
明治六年十月十日書

一 左通一末

紀伊侯公小札在之御意書一件
明治六年十月十日書

紀伊侯公小札在之御意書一件
明治六年十月十日書

紀伊侯公小札在之御意書一件

日友仁書

右途中途使行信者... 紀伊侯公小札在之御意書一件
明治六年十月十日書

宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申
宝曆八年二月十六日申

右一通年書温行

一 南於具福寺往同沙礼也
城之西沙礼也
音板之松宿也
内中

退却之書又た通書同
小捨使同心在御宅之事

右安永二己年九月十日
城之西沙礼也
龍潭寺也
以方也

安永七年戊戌年正月記
宝曆八年二月十日

幸終沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也
沙礼也

江尾連兵衛の遺稿に於て禮記の注を考ふるに
其の注に伯耆守及江尾連兵衛の事あり
此の事有る事は禮記の注に更なるに江尾連兵衛の事あり
其の注に伯耆守及江尾連兵衛の事あり

一 安永七年二月十日中野寺の僧上人僧正入院の位蔵
沙札の沙札書末の組入の如く在る事及後依此の圖法を以て院
上と出せる事

二月廿八日

中野書院

獨獲

年終の沙札

三井寺魚代

東南院

二束一卷

進物沙國の介の書目より
但巻數は三月十六日

年終の沙札

三行

久遠寺

年終の沙札

降百の石法出

八幡
堂藏坊法將

年終の沙札

三束一卷

八幡の魚代
下坊

之内沙國の介の書目より
但巻數は二月十六日上

住職 兼大僧正 中津權

三束二卷

増上寺大僧正

進和沙門之目三卷目

但大僧正中津權之目
所記不詳

石室曆八年伯耆守 兼大僧正 中津權 坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
松平右衛門 兼大僧正 中津權 坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
大僧正 兼大僧正 中津權 坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺

一 西水九五年

七月廿日 兼大僧正 中津權 坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺

坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺
坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺

一 坊寺 寺正 中津權 入 中津權 寺

十九

引寺

一 宝曆十二年春在遊得道所後の書付

三書付下

只今遊元末幸院言々百村寄物地也と云院は
分附けし又と讓地未済一歳有る右地也と
他々幸院或は他々信願未済後一右場和片
幸未済又と申幸難未済一願未済中宗有る
仕向一川方いし或は南河邊清く幸歸斗水後
亦と有しと云は門寺と云ふいし一は依承善下法り
活地未済院内と云は依承し依承今と云ふ言ひ
百村いふ論たし願地未済たしとも田畑獲りて院
分附けし一依承容易と云ふ難未済
春遊下と云ふ

二月

遊り上人

安永二年二月廿九日

一 遊り上人日蘭の御舟

お舟は左通中若

傳草

日輪寺

遊り上人を御舟に御腹多衣と服捨行脚仕り候
しと云ふ

仕上る中より皇子高親親王沙弥度殿三代目並
上人は云は候は也

林宗表之法門師と云ふ扱有る中山泉は云

九

何取歩何多新貨、入行年分何年進行、年季、
お定、金子何程借、中、年季何、元令返、
田代、下、度、格、心、沙、年、負、法、没、金、立、方、之、節、旨、
湯、之、居、之、如、下、之、債、入、地、年、

但田細多、教、多、一、紙、沈、文、難、取、時、之、列、情、息、
之、即、親、文、之、書、入、是、又、各、年、如、下、之、一、取、川、
い、中、之、事、或、有、之、在、列、帳、之、水、帳、之、書、移、之、
少、捨、之、帳、之、唱、

一 小代沈文通法之事

是、之、事、行、之、田、細、何、取、歩、何、多、新、貨、何、多、
法、没、額、何、之、小、代、系、之、各、令、之、或、行、程、何、多、意、之、
之、書、没、若、何、得、之、行、何、之、地、而、何、之、取、之、沈、文、何、
年、季、之、帳、何、有、之、年、季、之、意、之、一、之、何、之、
又、之、之、年、切、之、没、年、

一 貸地少代取制之事

一 年季取捨、年進、債地、流地

是、ハ、若、何、之、通、制、貸、地、沈、文、之、年、季、明、格、年、進、之、
い、之、ハ、元、令、沈、方、何、貸、地、之、方、何、沈、度、何、格、年、之、
本文、通、流、地、何、書、

但流地、之、文、之、年、沈、文、之、年、季、明、格、年、進、之、
何、之、流、方、何、付、

是、ハ、流、地、之、文、之、年、貸、地、法、人、何、之、年、季、明、

拾年以内の流地
は流地の中の内流地

一 年季の内流地

年季の内流地

是ハ昔古通例ノ文云々又ハ年季の内流地ノ行月
起リ元今迄海帰リリ流地ニシテ中流地流地云々
年季の内流地所請戻ル地地ノ所

一 年季の内流地
元今迄海帰リリ流地

流地
元今迄海帰リリ流地

是ハ昔古通例ノ文云々又ハ年季の内流地ノ行月
起リ元今迄海帰リリ流地ニシテ中流地流地云々
年季の内流地所請戻ル地地ノ所

一 年季の内流地
元今迄海帰リリ流地

一 拾年以内の年季内流地

元今迄海帰リリ流地

是ハ拾年以内ノ年季内流地ノ行月
起リ元今迄海帰リリ流地ニシテ中流地流地云々
年季の内流地所請戻ル地地ノ所

一 年季の内流地
元今迄海帰リリ流地

流地
元今迄海帰リリ流地

是ハ昔古通例ノ文云々又ハ年季の内流地ノ行月
起リ元今迄海帰リリ流地ニシテ中流地流地云々
年季の内流地所請戻ル地地ノ所

但右全地之形在對上地之定水帳書其
右上下之帳亦在定水帳書其
右有定水帳之通流方寸也

是ハ和文也然其不曉和文ハ其ハ入主也其ハ地ノ
地ノ流地ハ一リ又ハ地ノ形ハ流地ノ形也
定水帳改メ帳書ハ改メ帳書トノ事ハ其ハ和文也
其地古之組改メ帳書ハ其ハ和文也通水帳
和文ハ其ハ和文也

一
年季明流地
及流地之和文

年季明流地
三月之流地

是ハ和文也其ハ和文也田租ハ其ハ和文也其ハ和文也
和月ト和年季ト相定メ和文ハ其ハ和文也其ハ和文也

和月ト和年季ト相定メ和文ハ其ハ和文也其ハ和文也
流地ハ其ハ和文也其ハ和文也

和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也

和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也

和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也
和年季明流地ハ其ハ和文也其ハ和文也

一 貨地元金 海方中付上
返令 海方

地金令上付
流地

是と定別流地文令中 貨地流文 年事申拾年 内
地之信度之流地出之元又流地流文之去年申拾年 内
内海出付之元令海方中付口限之元も返令及申
以是と貨地之流地令全之元為流地事

但申流地事之元為流地事

是ハ申文之通地面令全之元為流地事之申地事
去之元為流地事ハ流地事之不及流地事指流地事
貨地事之申貨地之地面之申地事之申地事

一 貨地流文之文之宜
申地流文之申地事

貨地流文之申地事
申地事之申地事

是と貨地流文之申地事之申地事之申地事
定之申地事之申地事之申地事之申地事
之申地事之申地事之申地事之申地事

一 又貨元地事之申地事
申地事之申地事

又貨元地事之申地事
申地事之申地事

是ハ令全之申地事之申地事之申地事
申地事之申地事之申地事之申地事
申地事之申地事之申地事之申地事

是と申文之申地事之申地事之申地事
申地事之申地事之申地事之申地事

是と申文之申地事之申地事之申地事
申地事之申地事之申地事之申地事

此等ノ坊舎ノ分ハ又借入ノ物ノ金ニシテ海方ノ付
作書

一 清東甲地寺社限額
落後借入ノ寺社

江戸指里野
追放

是也

清東甲地寺社限額由相願及之ニシテ借入ノ金ニシテ
社人印ノ上ノ借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
江戸指里野

但落後借入ノ金ニシテ海方ノ付

是ハ申文ノ通田細願及之

而東甲地ノ借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
之他向大寺社借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ

但重ノ拾遺文又入申借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
我付ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ

一 小作滞

但借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ

借地限額ノ通ノ付

是ハ申文ノ通田細願及之
海方ノ付ノ借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ
借入ノ金ニシテ借入ノ金ニシテ

一 借地元金申出地并金元古地并金海出付ノ金

三 此後より出作し其旨を尋ねて其後貨地元全日限にて
小作作し同様に日限を付す事

假令貨地元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて

以れ小作全作し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ね

以れ其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

六 十日限を付す事且別小作し其旨を尋ねて其後元全日限にて

一 假令元全を以て小作元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて

其旨を尋ねて其後元全日限にて

一 車出作し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

貨入の地元を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

一 別小作し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

貨入の地元を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

小作元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

貨地元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

是も貨地元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて
貨地元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて
假令元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて
小作元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

但書小作し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

是も車出作し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて
元全を以て其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて
信令し其旨を尋ねて其後元全日限にて其旨を尋ねて其後元全日限にて

一 小代流文并其貨地
流文并其貨地

貨地令其有
三月

是ハ由小代流文并其貨地
流文并其貨地令其有
三月

一 家有小代流文
通之通

商人諸人ハ海軍并
河ハ其有商人ハ其有
三月

是ハ小代流文法人
日限之ハ其有
貨地令其有
三月

貨地令其有
三月

貨地令其有
三月

貨地令其有
三月

是ハ小代流文法人
日限之ハ其有
貨地令其有
三月

但年季限之ハ其有
三月

いふに申文同方にて

一 賃入の地面と申すは由化
法は地と申すは由化
法は地と申すは由化

右同

是も假令賃入の地面を町あり市本内及び方は地と方
我之由化申すは由化
右賃入の町あり市本内及び方は地と方
是又石橋の町あり市本内及び方は地と方
是と申すは由化

但同

一 或は年次と名田由化

永代と申すは

是の賃地と申すは由化
是の賃地と申すは由化
是の賃地と申すは由化

是の賃地と申すは由化
是の賃地と申すは由化
是の賃地と申すは由化

一 賃地之令年季の内由化
及出入の由化

因海之令年
地と申すは由化

是も假令賃地之令年季の内由化
及出入の由化
是も假令賃地之令年季の内由化
及出入の由化

一 貸主が重く他の中代
貸主が重く他の中代
貸主が重く他の中代

出陣中
借方中

地日限通不租貸主の地而方之書後

是の借主の地而との他地の中代等一は借主の言
今も海の中代等言一は日限通方の中代等言
及通海の中代等も貸入の地而方の中代等一は借主の言
今も年指の書後

貸地入令並車中代等日限通方の中代等一は借主の言
今も年指の書後

是の中代等と通中代等今も年指の書後
通日限通方の中代等

沙定書外

一 行来不待の地而の内水漲一面一年流有し地中代等今も年指の書後
有るのと取方の中代等一は借主の言

是の借入の地而必地の中代等一年有法及通例
地の中代等一は借主の言
水漲の高上も用の中代等一は借主の言
別の中代等

但是と取方の中代等

一 書入田相之事

是の中代等の上中代田相及行取方の中代等今も年指の書後
今も年指の書後
借主の中代等今も年指の書後

一 貨地讓文之事

与沈文認在書入田相之事、地方、依、一、年
但天柳、定沈文、其後、貨地、不相之書入
今在信令、准、有、古、方、裁、判、事、申
是之貨地沈文、字位、友、列、水、帳、府、合、政、以、以、其、也
不在、信、令、准、一、年

他沈文、判、存、之、料、存、事

沈文、認、書、之、貨、地、
認、以、之、也、法、度、之、文、云

永代賣同法
以、信、令

讓沈文、之、認、書、者、一、人
之、也、法、令、令、羽
所、之、文、云、有、之、也、法、也

右、同、以

延享元五年五月

津、好、之、也、書、付

是ハ、水、代、賣、之、信、令、也、沈、文、認、書、之、貨、地、或
讓、沈、文、之、在、認、以、法、度、之、文、之、也、又、去
後、候、礼、令、申、之、書、加、り、下、之、事、申、不、調、法、在
一、申、之、調、法、也、一、申、之、通、之、貨、地、沈、文、之
認、以、法、之、申、之、法、法、不、及、可、以、之、条、據、書、之、以、
り、以、之、申、之、在、候、相、定、申、事、之、以、信、令、之、條、據
其、ノ、以、及、之、事、也

右、沙、好、之、信、令、之、條、據、除、申、也

一 田相、水、代、賣、買、以、信、令、事

一 賣、之、料、任、
三、賣、之、文、
力、書、之、文、

一 買之水代費之田畑百石

一 沈文北

一 判之石之江織事

佐官發新田畑高清水中
山林系浪人
持去之田畑水代費之集

家賃金決之口限

- 一 三拾石以下 早日
- 一 三拾石以上 六日

一 五拾石以上

八十日

一 一百石

兩半日

一 一百石以上

見合

一 千石以上

十五日

右口限若賃決方中行事

一 家賃賣度沈文

一 盤詰床也場所

一 舟床書入

一 惣成貨物

右口限家賃決年日限迄不相決之由力ハ其取
為決之事

戌
九月

古三

貨地并不在今本涉方日限

一金五支以下

二千日切

但借令いさるる梅平日切

一 同金五余分格取返

二千日切

一 同格百余分格取返

百日切

一 同格百余分格取返

壹千日切

一 同百百日切

十ヶ月

一 同百百日切

十ヶ月

一 同百百日切

二千日切

一 同格百余分格取返

百日切
壹千日切

子
七月

切金

一 同格百余分格取返

切金百日切
三百日切

一 同格百余分格取返

百日切

一 同格百余分格取返

百日切

一 同格百余分格取返

百日切

七四

七五

同之指友近
 同五指友近
 同六指友近
 同七指友近
 同九指友近
 同百友近
 同百指友近
 同百指友近
 同百指友近
 同百指友近
 同百指友近
 同百指友近

三友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友

同七百友近
 同九百友近
 同千友近
 同二千友近
 同五千友近
 同万友近

九友
 七友
 七友
 七友
 七友
 七友

右切合書面刻合之通を月より夜より各事
 一 或指友一七八友近ハ或指友ニ定指友即事消合
 一 或指友一七八友近ハ或指友ニ定指友即事消合

右切合書

帳外

世有寺不... 山邊... 院

市... 言...

佛金... 永...

主方... 入...

一... 入...

初切... 分

降... 寺

寺

在... 入...

入

書... 日

天... 福寺

所... 亮寬

訂... 領分

典... 卷村

百...

首...

石...

在... 方

主方... 入... 限... 入...

切合書之由之分り付

二月

石橋外出

一 延永二年二月十二日

新井氏用

一 初切は作有先延先を懐介に送るに延永
延永二年二月十二日 延永二年二月十二日
延永二年二月十二日 延永二年二月十二日
延永二年二月十二日 延永二年二月十二日
延永二年二月十二日 延永二年二月十二日
延永二年二月十二日 延永二年二月十二日

別日所可通記所あり同
祖母并村准介三人貨物不和
渡出入

切切書

遠國公事人雅用書

中之旅人高飯料

一 延永二年八月十九日江坂孫之宗所取沙也
法回合口通

一 公事人喜山分法所雅用書あり
延永二年八月十九日

古六

一 村方のとりのり出入り西... 村方の

一 海防の方おりの方大川合... 雑利の南人...

一 三原人抄... 雑目...

本は相列大少等領師賦... 是田... 師賦集人... 右... 抄書...

しつ法...

一 安永二年九月曲... 同月之日...

旅人... 以...

内 四書... 九...

一 以意中... 安永十二年...

但...

河内府後之末使以中

卯聖亥二月六日

一 今使奉侍之以上奉服以女子使成以中以上同者依和年
紀伊守御下以新以故以故用者右邊將監押以上當推也
今使所存

一 因刻信於今使上因の自以用者以初二より三以上及右邊推
以上在之以上故以人の上は信也

此用筆の日に聖七日卯六の降役人於小日卯
伊守の御下守の上の事九紙口為り也
在河内府の信書入年

十一日卯卯

一 今自之入公室初月是例守身成り也以上推伊守御下
河内府守御下初月是例守身成り也以上推伊守御下
以上推伊守御下初月是例守身成り也以上推伊守御下
以上推伊守御下初月是例守身成り也以上推伊守御下

一 伊守の御下守御下初月是例守身成り也以上推伊守御下
以上推伊守御下初月是例守身成り也以上推伊守御下

一 卯卯卯子年六月十日

在邊將監啟

伊守の御下
貴守の御下
河内府

天皇御政御下

遊記の如く、方回人を以てす。

志中口抄書之立合口
聖座之儀、上、下、書付

相
許堂、一、所

志中口抄書之許堂、初、如座、伏、許堂、不、之、卷、
志中、之、内、之、人、因、事、合、上、如、座、伏、又、毎、之、即、
志中、之、日、抄、書、之、日、之、夜、出、所、在、之、所、之、年、日、之、
志中、之、七、日、之、日、之、夜、出、所、在、之、所、之、年、日、之、
志中、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、
志中、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、
一、志、三、十、日、ハ、十一日

一、志、十、日、ハ、四日
一、志、六、日、ハ、二日
一、志、三、日、ハ、一日
一、座、探、七、日、ハ、二日
右、通、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、
如、此、一、つ、付、ハ、

但、内、外、合、上、同、在、之、所、抄、書、中、也。

一、或、日、之、夜、是、迄、通、之、一、所、座、之、所、或、日、之、夜、是、迄、通、之、
以、乃、目、物、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、日、抄、書、之、
右、之、通、許、座、は、一、合、上、之、所、之、夜、是、迄、通、之、
一、志、三、十、日、ハ、

子二日

一 古時更張之始也

一 明和八年二月廿日

一 本所より所下紙出さるる事有叶今夜更張判書申渡去
以之月所用者松平因房之御札以明和八年九月廿日
六月廿七日迄

一 右之月以一所去紙出さるる事有叶知事札也

一 以初紙出さるる事有叶知事札也
如、更、不、存、久、以、有、紙、及、上、之、事、有、叶

但押合方より所下紙出さるる事有叶

一 翌六日因更張申渡去、日知事札也、有、是、又、以、紙、出、さ、る、事

出さるる紙出さるる事有叶
九月九日、所下紙出さるる事有叶
此後、更、不、存、久、以、有、紙、及、上、之、事、有、叶

一 沙忘申有同合覺

一 今公申之旨詳定日、有、出、事

沙忘申、有、旨、候、事、有、叶、候、申、渡、事、有、叶

一 法也、書付事、有、叶

平、存、久、以、有、紙、及、上、之、事、有、叶

一 沙叢判紙出さるる事有叶

一通、了、更、張、判、書、申、渡、事、有、叶、通、信、事、有、叶、候、申、渡、事、有、叶
沙叢判紙出さるる事有叶

平日通以水汁五五形

一 掛合し便有書持系し書院有し
法有し

掛合し便有書持系し書院有し

一 漢持院因後日延成忘事

此有し 任有別書傳わたり

一 平生書及紙は紙も高申

書面し

一 寺社及執事大権使小権使月代事

表初より二日二日

次

一 若殿御沙高風

一 若殿御沙高風

一 若殿御沙高風

若殿御沙高風

一 若殿御沙高風

押合 清村

去之世、以之、も、は、其、世、に、成、る、事、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
十、有、二、月、日、月、日、有、る、事、に、以、神、の、預、け、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、

一 取、得、り、得、る、事、に、

今、泉、法、院、也

如、名、成、り、し、物、事、其、世、に、成、る、事、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、

一 入、念、度、度、多、く、入、

一 其、九、分、を、付、之、
以、神、の、預、け、に、

今、泉、法、院、也

以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、

一 善、悪、の、行、を、以、て、以、神、の、預、け、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、

一 東、門、鴨、井、村、本、柳、寺、神、宗、の、寺、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、十、有、二、月、日、月、日、
有、る、事、に、以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、
以、神、の、預、け、に、成、る、事、に、

古教海に日然に 倭界に内海を潤は
る海に十度年方取合はる事の中
に評定書に本例に得る事九
中酒井の事は内海の方より
事は内海に上野宮に在る事
なり

以て海客に往く事
は乃ち相續たり必日也海客に往
路長村中柳等並成に全海出入内海
と評定書に本例に得る事九
中酒井の事は内海の方より
事は内海に上野宮に在る事
なり

事取上りて事は内海に
なり

九月二日

上野宮の事

一人

一十六日

以て海客に往く事
は乃ち相續たり必日也海客に往
路長村中柳等並成に全海出入内海
と評定書に本例に得る事九
中酒井の事は内海の方より
事は内海に上野宮に在る事
なり

一 廿日友通子紙文

以紙一 御書御事一件との
高上は後御事の中は江沼可申得事
の左の事は後御事の中は江沼可申得事
史撰書の中は江沼可申得事

九月廿日

一
天吾年出入おの方之老江沼河沙年
河沼は後御事の中は江沼可申得事
以の御事の中は江沼可申得事
侍者御事の中は江沼可申得事

唐土公家之其日出府之信言中江沼河
河沼は後御事の中は江沼可申得事
江沼河沙年

九月廿日

由 唐土公家

三人

一 唐土公家之其日出府之信言中江沼河
河沼は後御事の中は江沼可申得事
江沼河沙年

一 唐土公家之其日出府之信言中江沼河
河沼は後御事の中は江沼可申得事
江沼河沙年

一 存一紙子紙... 遺門... 紙子...

此紙波... 九月十七日

酒井元時... 九月十七日

一 沙... 紙... 遺...

但西... 一...

字...

一 特... 二月... 同日... 一月十八日...

札

一 以新入目付二束志麻草紙目付三束志麻草紙目付

以新紙目付

日付

一 板倉仕渡草紙目付二束志麻草紙目付三束志麻草紙目付

板倉仕渡草紙目付二束志麻草紙目付三束志麻草紙目付

以新九月出仕丁仕立草紙目付二束志麻草紙目付

也 城仕立仕立草紙目付二束志麻草紙目付

二日午八日

沖名

一 其有草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

以新草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

但以新九月出仕丁仕立草紙目付二束志麻草紙目付

也 城仕立仕立草紙目付二束志麻草紙目付

日付

一 以新草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

以新草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

一 以新草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

私儀草紙目付仕立人仕立草紙目付二束志麻草紙目付

七日午八日

沖名

存使公引候様是日之月沙洋定所上沙知席より
伊達散下り伊中に出候様候へり方及候段候
之書持申奉

一 今二日退散を之候段所より伊中に出候様候へり方
たし通

社成所候様候り候へり方今日候へり
方伊中候様候へり

七日

伊名

一 退勤候様候り候へり方今日候へり

六月十七日
今日伊中候様候り候へり方今日候へり

伊人斗り候様候り候へり方今日候へり
伊中候様候り候へり

退勤候様候り候へり方今日候へり

一 伊中候様候り候へり方今日候へり

伊中候様候り候へり方今日候へり

伊中候様候り候へり方今日候へり

伊中候

伊中候様候り候へり方今日候へり

一 伊中候様候り候へり方今日候へり

正八

寛永六年六月廿一日
中城乃、園以持事迄

程月紙 聖六十條

戸田因満
印鑑 ○
寛永六年六月九日改

平澄改
上包
何事行
白目書
内
平澄改
右川吉上書
手改

上包
平澄改

戸田因満
印鑑 ○
由阿甲改

紙十法同

戸田因満
印鑑 ○
寛永六年六月九日改

平澄改
上包
何事行
白目書
内
平澄改
右川吉上書
手改

平澄改
上包
何事行
白目書
内
平澄改
右川吉上書
手改

平澄改
上包
何事行
白目書
内
平澄改
右川吉上書
手改

二色
同

平澄
印鑑 ○
新見加美子殿

一 寛永六年六月廿一日
中城乃、園以持事迄

- 一 上通より松原の上通に於ては松原の上通
- 一 下の上より松原の上通に於ては松原の上通
- 一 下通より松原の上通に於ては松原の上通

安永四年十月廿七日

市川金吾右衛門

- 一 伊奈重忠の松原の上通に於ては松原の上通
- 一 下通より松原の上通に於ては松原の上通
- 一 松原の上通より松原の上通に於ては松原の上通

安永四年十月廿七日

- 一 社人吉田重忠の松原の上通に於ては松原の上通

松原の上通より松原の上通に於ては松原の上通

- 一 下通より松原の上通に於ては松原の上通

安永四年十月廿七日

市川金吾右衛門

一 下通より

松原の上通
市川金吾右衛門
和田重忠

一 他書年十月十七日御前圓永年寺一件落居
一 長法郎一箇之結伊志事爲取以爲本
出之紙上通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 下通

田村八右
田村八右
田村八右

石名神事一箇之紙内府之件取之
多官押込
中通一箇之紙内府之件取之
一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

一 伊志事通一箇之紙内府之件取之

安永六年十一月後廣寺格付

石上月廿九日依廣寺格付同日三月廿日取所り候
吉松治兵衛等申上申付候事望言同人共返至

即厄除祈禱所凡取所寺社より
就上同候申上申付

書面同通下廣寺格付取所候

石上月朔り

寺社奉行

朱戌年

公方様御厄年、有諸寺社、御祈禱候所、仕
済凡沙後申取上候相願、申上候所、有候事

申上候所、有候事、申上候所、有候事

申上候

上月

七日叢書

一 全浪入、石限、申上候所、有候事、申上候所、有候事
海内取所、申上候所、有候事、申上候所、有候事

但吟味、申上候所、有候事、申上候所、有候事
全上申上候所、有候事

三卷一三拾三

右全公事

二十日豫方へ去る評定書帳付し

此後後決すこと

例 五永六申年十二月廿四日

申公事申公事裁評し去る後決す事

十一日

五永六申年十二月廿四日

一 一 度 一

評定書帳付し此後後決すこと

一 評定書帳付し

是より評定書帳付し此後後決すこと

評定書帳付し此後後決すこと

一 評定書帳付し

甲別裁井付運書帳付し此後後決すこと

三拾二

源平の戦い

但し目録に記す所は、大目録に於ては、
此紀に記す所と異なり、又、
下り、此紀に記す所と異なり、

一 中を記す所は、
他方、同云

地不の物

幸院の物

内務令

一 幸院の物、
此紀に記す所と異なり、

但し、
石別、
力地、久遠寺、
石別、
内務令、

追討

力地、久遠寺、
石別、

石別、
内務令、

裁許後及再編の

七年六月

一 海軍省の事務、
裁許後及再編の

裁許後及再編の

裁許後及再編の

三拾四

限らば裁許を以てし寺院の事、尚年令
に沙裁許

例中年後別清見寺未令合はく出入

右込海

一 地元の

順地次

一 支配の

四代友

一 家限

觸以

右込海有る得は之地限を能觸以世渡り
之節に右紀區中下下は若く相麻りて下下

右込

但し代官を以て勅を以てし伊予津島河口に

左入

地限
福地

今亦不相承を以て下下は若く相麻りて下下

以て限均す如ん

但し裁許は皆限に以て限の、此言同也

一 右込海

同東、高井町人

沙勤三三三

沙府内町人

町三三三

同外々

寺社三三三

右込海有る得は之地限を能觸以世渡り
之節に右紀區中下下は若く相麻りて下下

世国介し百性久込海一支配の一顧之との
前書より述ぶ計他領とのありあり
地頭より事内百一事取右久込言身
勿論海印より沙料より勘定事内
し紙一腹又

拾海状

安永六年
一 拾海状

右封の儀
沖城在り海定下はく沙料定所は持来

沖城

遠國事の内二事の内事

一 遠國事の内二事の内事
徳来寺社事の内事沙清水
沖城在り海定下は持来は定所
但上包沖城おらりくは持来事
右右沖城おらりくは持来事

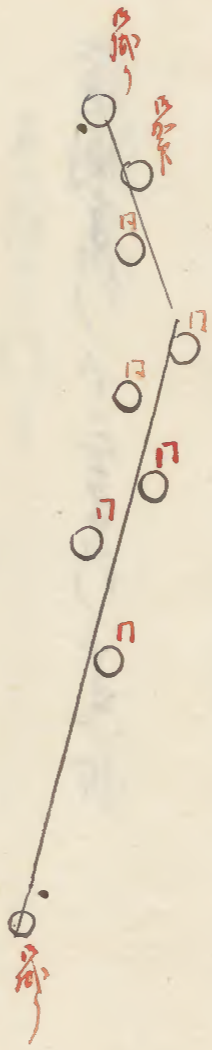
田海子

一 田海子
三拾六 三拾七 三拾八

評定本と評定知事公命書並に裁判書等の評定書に
 少あり。田舎公命書限物有。准之公命書并評定書
 評人との評定書一皮公命書一紙有。評定書の評定書
 評定書

裁許繪圖表書

湯水山ノ下



信濃國種村郡桑原村ノ抗敵村

新田村村境論裁許書

東海村海邊より内通市新田より内通之途、地味有
 在田之介、東海村海邊より、抗敵村新田より、
 地味より、之より、抗敵村新田より、
 村境より、村境より、
 地味より、之より、
 中田より、
 之右、
 九、
 之右、

法如地付有之場不惣及別七拾七町九反七畝有之
余亦或刻日之移設時之及七畝有之田方之在
或中代相方九年代新田八斗代在邊之七拾七町
歩方之荒地之九拾七畝有之限七畝有之
取許瀝之之粟作村松原下村新田境迄延用水
落口之方其高之松下之荒地之松下村之方論介
松原下新田古村時之傷境下見返一由田川路之
村境古松原許平仍之松原田川路之觸各知取
令表書取方下下在系承承之邊花七也

丙三月

評定所

一評定所備者波高死後之遺配者例

安永六年三月六日抄紙中ノ取方之存也

丙三月六日

評定所備者小夫之文章馬高六月月中旬
癩病之發後之及七畝有之田方之在
波死之日迄或之松原許平仍之松原田川路之觸各知取
因波原尾持書之由之形也

松原許平仍

中成河原新寺社沙札廻り

嘉永七年戊午二月廿七日申和羅漢寺社沙札廻り
書

沙札廻り

中成河原新寺社 沙札廻り

中成河原新寺社 沙札廻り

一 幸社沙札廻り

一 幸社沙札廻り

一 幸社沙札廻り

一 幸社沙札廻り

一 幸社沙札廻り
幸社沙札廻り
幸社沙札廻り
幸社沙札廻り

嘉永七年
戊酉月廿日

羅漢寺

中成河原新寺社沙札廻り

一 二月廿七日申和羅漢寺社沙札廻り

中成河原新寺社沙札廻り
中成河原新寺社沙札廻り

軍一 軍二

右ノ所傳述年々社為他傳科以全下ノ以
之以下之他略日且又右為他傳科年々全下
右之他傳科重以長之為願方ノ内之及之他傳科
一取掛之他傳科合下之之式之之年々之他傳
料傳科之之之之之之之之之之之之之之之之
年々之他傳科重以長之為願方ノ内之及之他傳科
一取掛之他傳科合下之之式之之年々之他傳
料傳科之之之之之之之之之之之之之之之之
年々之他傳科重以長之為願方ノ内之及之他傳科
一取掛之他傳科合下之之式之之年々之他傳
料傳科之之之之之之之之之之之之之之之之

二月

去年伝紙

安永元年二月
一 町奉行由河内傳紙之由伝紙

戸田因傳紙
左田傳紙
右田傳紙
物部傳紙
由河内傳紙

例年ノ通去年伝紙之去書上之之之君
之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之之之

二月八日

由河内傳紙

甲四

右田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事

戸田園情事

曲調中何れも一足成る事は一はては

二

三

右田園情事 戸田園情事

一 右田園情事

二 右田園情事

戸田

戸田園情事

九月廿二日入年

戸田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事
右田園情事

右目り

吉田法隆寺願分
同願山新少付
一戸性要如所

助八
三十二歳

右目りの大忍事ありし此條の内入字
し分並及中状以降を同書百兩庄と未
お済りし

甲別所延山
丙合燈村

能化

藏書院
日通

四十五歳

右目りより揚屋入
同日右目り病ありし年
同日右目り病ありし年
同日右目り病ありし年

右目り忍事ありし此條の内揚屋下ありし
松平園防より及中状以降を同書百兩庄と未
お済りし

右目り

甲別所延山同前所
中目り

警し照
四十五歳

右目り海入年

日所

町醫師若佐輝

乙休
四十五歳

右目り忍事ありし此條の内揚屋下ありし

右目り

右目り忍事ありし此條の内揚屋下ありし

法二日

一 右目り忍事ありし此條の内揚屋下ありし

同大中年二月七日

曲淵里書

大波原書

未園三月十日揚屋入

甲列佐藤藤田藏山
少社系七人書代

菅山頼母

中平系

長田丹海

中平系

布衣者或許波雅温存揚屋是重程又
利書中平系係公一為者三月十八日
也平書中平系

布衣者或許波雅温存揚屋是重程又

中二月

一法裁り去年係紙との平一最速書

也水六百年書後

曲淵里書

戸田周情書

按名裁り同去年係紙無音存

二月

遠為

軍且

今合六... 巡獲... 不可持... 始末... 九月

九月

在... 九月

一 九月... 九月

九月... 九月

以... 九月

以... 九月

九月

九月

以... 九月

一 教を不出帆と云送了内未渡厚旨書取と致出
りとのりたるは 御宗匠同命少候申し也
水取は未渡厚旨一教を了り送為申す取申し
云り厚旨書取厚旨書取と申す也

九月七日

一 十月十日 御宗匠同命少候申し也

依田宗之助
去渡厚旨書取

御宗匠同命少候申し也

九月

一 十月十日 御宗匠同命少候申し也

今取法書取
去渡厚旨書取
御宗匠同命少候申し也

以紙書取と云送了内未渡厚旨書取と致出
りとのりたるは 御宗匠同命少候申し也
水取は未渡厚旨一教を了り送為申す取申し
云り厚旨書取厚旨書取と申す也

くうの字、御書に、
多岐の物、
四一

二日世了

情不立、
初有文、
八情、
今、
如、
大、

四、
和帆、
院、
源、

下、
以、
以、

二日世了

一、
以、
以、

中、

德、

佐、
使、
其、

石十月廿二日 豊後県下

三ノノ

右院又建書法門令在送院中亦有抄撰所
之院人トト

右坂中右洞抄本右新撰法吟集一件正法寺去併
以憲 右新撰法吟集正法寺

一 抄本正法寺之書信右新撰法吟集正法寺

河内新撰法吟集

初刊正法寺抄本

正法寺

正法寺

正法寺

正法寺

中九月廿二日入京

右院又建書法門令在送院中亦有抄撰所
之院人トト
右坂中右洞抄本右新撰法吟集一件正法寺去併
以憲 右新撰法吟集正法寺
一 抄本正法寺之書信右新撰法吟集正法寺
河内新撰法吟集
初刊正法寺抄本
正法寺
正法寺
正法寺

右院又建書法門令在送院中亦有抄撰所
之院人トト
右坂中右洞抄本右新撰法吟集一件正法寺去併
以憲 右新撰法吟集正法寺
一 抄本正法寺之書信右新撰法吟集正法寺
河内新撰法吟集
初刊正法寺抄本
正法寺
正法寺
正法寺

同撰

一 古本之書を修りぬるに
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし

一 古本之書を修りぬるに
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし

依田春樹
三好重良
福江健策
依田春樹

一 古本之書を修りぬるに
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし
其の五方を以て法とし

見直しに及ぶ事ありて右に節力支會の事所
 於白洲を借るの事人々其の事也
 一 幸病く老に落親類を送る物亦一向に難
 之のしや事即して事なり而も金出首之等
 取らざるに解し事下事事并然事以事
 事下事に事事町事り而も事と事也
 一 町事り事力不事事事力事川渡事後事
 場新田内に入事事事事親類酒事杯
 持事出事進之内惟乞酒度候事於事
 是先勝事次事唯乞事事事事事也
 一 如事事事事事事人回事事事事事
 事進事事也

一 遠事との事進七七湯事通

伊豆園 宗修 利修 長修
云元修 伊修 利修 長修

在事酒と唱事事事事との事元修の事
 事修の事事事事事事事事事事事
 事事事事事事事事事事事事事事
 事事事

一 在事進事推事使事事事事事

一 採事事事事事の事事

安永六年九月

抄御書

八田園情事

拙者拙之因是為之者言也
乙九月

山相談書中一法紙限

以之紙限之法相人先事及事法
賣日及法事各法事之法相可也
之先法事各人賣之紙限之法
山相談書中一法紙限之法
之法事各法事之法相可也

乙月

古井大徳氏

以之紙限之法相人先事及事法
賣日及法事各法事之法相可也
之先法事各人賣之紙限之法
山相談書中一法紙限之法
之法事各法事之法相可也

八月十日

古井大徳氏

以之紙限之法相人先事及事法
賣日及法事各法事之法相可也
之先法事各人賣之紙限之法
山相談書中一法紙限之法
之法事各法事之法相可也

手紙の消込は通に列紙を冊書に先達
乃ちおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院
に出せし味も通に列紙を冊書に
先達を申し相結書に原紙及びおぼしめ
思ひおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院
乃ちおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院

二月十日

土井大炊頭

一 安永七年二月十日 土井大炊頭 宛 書

手紙の消込は通に列紙を冊書に先達
乃ちおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院
に出せし味も通に列紙を冊書に

以手紙の消込は通に列紙を冊書に先達

因習が中村丹波守中書令忠盛死す所
以手紙の消込は通に列紙を冊書に先達
思ひおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院
乃ちおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院

二月十日

戸田内膳

阿保中書令
古 佐後守
古 佐後守
古 佐後守

手紙の消込は通に列紙を冊書に先達
乃ちおぼしめし知りし海蔵の抄書も量院
に出せし味も通に列紙を冊書に

中別所行遠寺末
下右池(居寺)所

日蓮末
覚性寺

右後内方(方)定規(方)表通(方)回梁(方)格(方)局
二階(方)造(方)前通(方)人(方)底附(方)後通(方)方(方)中(方)附
化(方)事(方)以(方)中(方)格(方)年(方)寺(方)備(方)家(方)沙(方)度(方)方(方)覚(方)延(方)元(方)辰(方)年
大(方)園(方)越(方)前(方)寺(方)社(方)勸(方)修(方)中(方)格(方)年(方)光(方)年(方)奉(方)願(方)之(方)長
付(方)法(方)儀(方)之(方)長(方)格(方)年(方)光(方)年(方)奉(方)願(方)之(方)長
自(方)右(方)家(方)化(方)再(方)拂(方)墓(方)所(方)以(方)中(方)一(方)方(方)格(方)年(方)行(方)於(方)通
中(方)付(方)儀(方)

二月

同七戌年(新)親(傳)家(例)

長部(方)局(方)

戸田(方)因(方)情(方)

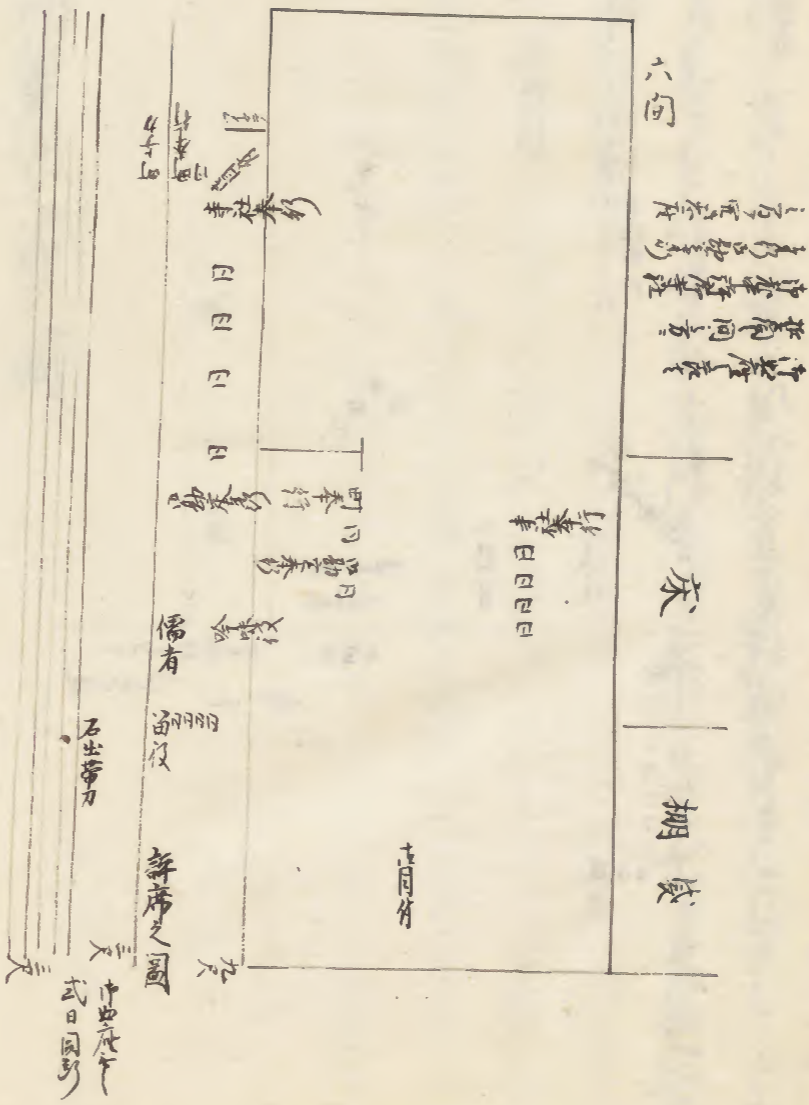
月(方)延(方)久(方)遠(方)寺(方)末

海(方)年(方)初(方)寺(方)所

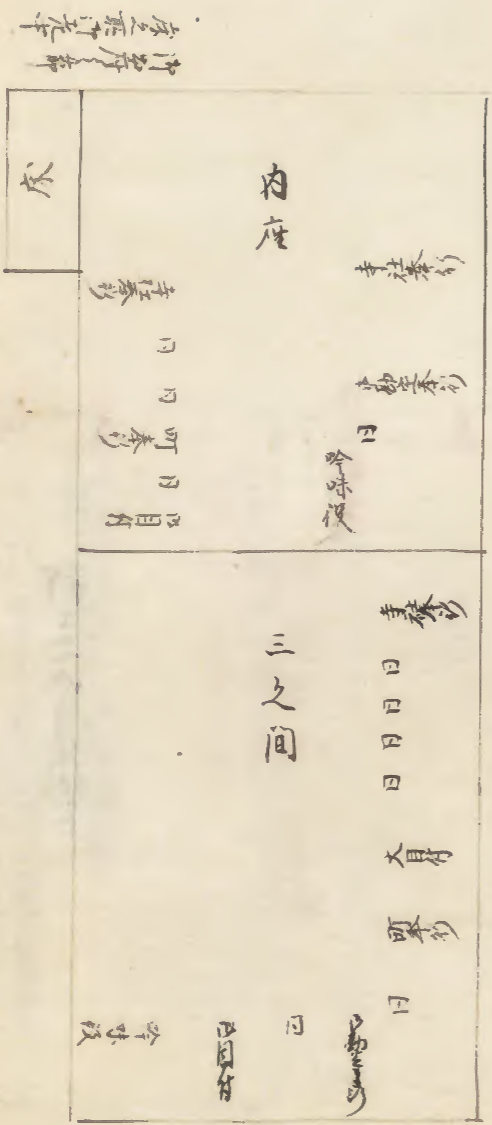
日(方)蓮(方)末
蓮(方)光(方)寺

右後内(方)方(方)院(方)之(方)表(方)方(方)表(方)門(方)海(方)通(方)打(方)以(方)之(方)格
格(方)年(方)寺(方)備(方)家(方)沙(方)度(方)方(方)元(方)文(方)元(方)年(方)大(方)長(方)越(方)前(方)寺(方)
寺(方)社(方)勸(方)修(方)中(方)格(方)年(方)光(方)年(方)奉(方)願(方)之(方)長
之(方)中(方)一(方)方(方)定(方)規(方)之(方)新(方)制(方)以(方)格(方)年(方)光(方)年(方)奉(方)願(方)之(方)長
格(方)年(方)光(方)年(方)奉(方)願(方)之(方)長
沙(方)度(方)方(方)元(方)文(方)元(方)年(方)大(方)長(方)越(方)前(方)寺(方)
沙(方)度(方)方(方)元(方)文(方)元(方)年(方)大(方)長(方)越(方)前(方)寺(方)

推察洞之内座也立會之朝者府之圖



清野府之刻者座之圖



伊豫説之事

漁説書

戸田因幡守

一 上列書分月天神決日市東大内藏於同村各之甚同所者分
修而出入

是ハ云々上旨者ハ不御去月有之也

概今ハ流裏者分之懐中ハ之也ハ依之及ハ漁説

二月

信儀書

戸田因幡守

後列書分月同中込村地所出入

是ハ云々上旨者ハ不御去月有之也
概今ハ流裏者分之懐中ハ之也ハ依之及ハ漁説

三月

右ノ上列書分月同中込村地所出入

一 明和四年

新井氏留

古伎更濃守

後列書分月同中込村地所出入
概今ハ流裏者分之懐中ハ之也ハ依之及ハ漁説
是ハ云々上旨者ハ不御去月有之也

五拾

以信記

十月日

右以信記書卷第八除之号下也

加

同年十月廿日於解至第一座下信記

信記書

出野誠年子

大坂出濱町堂屋 辰利書於子内及信記卷之四列
未備於中村所 物堂 戶持人 上書 船通之代帳
簿出入南月四日 辰利 病氣 道中 去淨日 然如
波内 信記 今月 辰利 辰利 辰利 辰利 辰利 辰利
以後 各信記

十月

江湖之事

其水七年戊午二月大申寺寺記書

其

一 帶法幢地 九日申十百寺記有

在寺地之帳上 壬午申十百寺記有
携以信記在信記之人法幢之帳之出世所記者
言信記之帳上

一 行法幢地 九日申十百寺記有

在寺地之帳上 壬午申十百寺記有
携以信記在信記之人法幢之帳之出世所記者

五拾

市岡市女禮文

安永七戊 戌年二月廿二日

左ノ書有海新ノ紙ハ
小控使相改別紙之通
全書遠有進戸礼文
ニテ...

此書有寺額上儀

甲別力地門家
存之
戸右馬

甲別力地門家所
居居礼儀上原

加人
南内子一茶

右加人書方地山不化持法之同所
宣院一件以少傳有之運上儀
正新也山居原也

西辨決カケテ 慶長
地力一海寺作



多似村也 作有書方平法意
市岡新通 市岡判次郎
作有書方平法意 作有書方平法意

安永七年

戌二月

甲別力地門家
加人 戸右馬

寺社

市奉行所

一 在信條書及通中檢使書有之

以人

大女

髪別系

其拾三

甲別力地門家所
居居礼儀上原

加人
南内子一茶

整内起之度以各法心出而
云云云

右通盤相及如相遠之序所云

成三月廿二日

一二月廿七日通力同合於

冲城之通力月者高升去依云云

冲城之法

戸田因情云

女主人江戶甲斐國區麻郡是山門前町
住年一介傳 冲城新創新創之通力依云
判云云右云中井法云更云依云云是山門前
札

下所改之原之序之依云云
其云云地之原之依云云
戸田因情云云
下月信云云

其永七戌年二月 戸田因情云

云云升去依云云
依因云云
依因云云
依因云云

△札附

云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云
云云向一云云

石沈天於人等如於海不後人古價安在中心
 河國不追見送りくとの事は在後方之限中在在
 一安永七年古事了り然る而も在方之相成事有手候
 九折之事も海内戸有之候事物唯一射入
 中は折をくし山駕余り以思入不中自國新前
 中事案の之に在細政清事

